をしてこわれた人形を見て、すごくこわかったです。

でも、シートベルトをちゃんとつけていればこんなことは起きません。たった一本のベルトがいのちをまもっています。

これからは、いつもこのことを頭に入れて車にのりたいです。

『みんなにまもられて』

新川真理さん

しょうがっこうににゅうがくして、あるいてかえるようになりました。

「とびだしは、だめよ。くるまはきゅうにとまらないんだよ。」

「しんごうがカチカチしているときは、わたっちゃだめ。」

まいにちおばあちゃんはいうようになりました。どうしてまいにちいうんだろうとおもいました。

でも、あるときおつかいをたのまれました。うきうきして、もんからとびだしそうになったとき、くるまがきゅうにめのまえをはしっていきました。しんぞうがドキドキしてびっくりしました。おばあちゃんのいっていることをおもいだしました。

あさは、しゅうだんとうこうはんでいきます。まずは、しゅうごうばしょにあつまります。

「まりちゃん、おはよう」

六ねんせいのおねえさんが、いつもやさしくこえをかけてくれます。そして、てをつないでいっしょにあるいてくれます。だからあんしんです。

がっこうでは、「かえりのやくそく」があります。

「とびだしはしません。」

みんなでいってから、さようならをします。かえりは、二ねんせいのひとといっしょにあるきます。みんなでならんであるきます。スクールガードのひともみまもっています。

わたしは、いつもひとりではありません。おうちのひと、せんせい、ちいきのひとみんなにまもられて、あんしんしてがっこうにいくことができます。

これからも、おうちのひととのやくそく、がっこうでのやくそくをしっかりまもって、くるまにきをつけてあるきたいです。

そして、じぶんのいのちはじぶんでまもりたいです。

『冬の道ろに気をつけよう』

加藤杏奈さん

わたしが初めて交通事こをこわいと思ったのは、小さいころ、ひいおじいさんが交通事こで死んでしまったという話しを聞いた時です。

次にこわいと思ったのは、スキーのおうえんで十わ田湖に向かうと中で、おじいさんが事こにあった時です。

わたしは、おばあさんと家でるす番をしていました。もしとなりにのっていたら大ケガをしていたかもしれません。

おじいさんの車は、雪道のまがりくねった上りざかで、すべってはんたい車せんにとびだして、たい向車にぶつかってしまいました。

話しを聞いたときにはびっくりして、こわいのとおじいさんが心配なのとでなみだが出そうになりました。

おじいさんも相手の人も、大ケガにはなりませんでした。でも、車はこわれてしまいました。

わたしのすんでいる秋田けんは雪が多いので、冬はとくに気をつけなければなりません。

おじいさんも気をつけてはいたのですが、車のタイヤはすべりだすと止まらないそうです。急にハンドルをきったり、ブレーキをふんだりすると、すべってしまってかってに動いてしまうそうです。

また、ふぶきのときは、前がぜんぜん見えなくて、こわい思いをしたことがあります。

今まで事こにあわなかったけれど、事こになってしまうと車がこわれるだけでなく、人もきずついてしまいます。死んでしまうこともあるかもしれません。

わたしたちは車にのるのになれていますが、気をつけないと事こになるということをわすれてはいけないと思います。

うん転手の人におねがいがあります。

雪道だけでなく、いつもうん転をするときは事こにならないように気をつけてください。

わたしたち小学生も、歩くときや自てん車にのるとき、いつも気をつけてぜったい事こにあわないようにします。

これからは二どとこわい思いやかなしい思いをしないために、交通きそくをまもって、交通安全に気をつけたいと思います。

細田満里奈さん

淡路うららさん

菊地凜華さん